

明石工業高等専門学校図書館

図書館報

第43号 平成19年12月

目次

2007秋 昭和を振り返る・・・(1)
郷土資料ガイド(4)・・・(2)
私と読書・・・(3)
自著紹介・・・(4)
学生の声・・・(5)
図書館と私・・・(6)
読書感想文コンクール・・・(7)
推薦図書・・・(11)
利用統計・・・(12)
利用案内・・・(13)
海外の図書館・・・(14)

2007 秋 昭和を振り返る

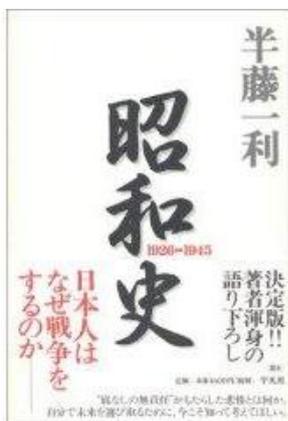
高 久晴

今年、昭和の年号に通算すると「昭和 82 年」となり、特に区切りの良い年というわけではないが、前総理が「戦後レジームからの脱却」を政権課題の一つとして掲げたことも影響しているのか、昭和を振り返る書籍が多く出ている。

一時、歴史の授業を実施せずに受験勉強に充てる高校の多いことが新聞を賑わしていたが、若者だけでなく、戦後生まれの日本人の大方は、歴史、とりわけ近代に対する知識が乏しいというより皆無に近い。その原因として、戦後、終戦に至るまでの過程がすべて悪なるものとして否定され、教育でも出来るだけ触れないようにしてきたことが挙げられることが多く、これも「戦後レジーム」の一つと言えるであろう。しかし、「レジーム」というからには、それを形作る要因となるものが一つ前の時期に必ず存在していたはずである。

本書は、昭和の初めから終戦に至るまでのわずか 20 年間の日本が破滅に突き進んだ過程を 17 章にわたって講義風にわかりやすく書き下ろしたものである。それにしても大正デモクラシー時代のすぐ後に、判断力のある教養人が、軍部も含めて政界・マスコミ等に沢山いたにも拘らず、国全体が遮眼帯を付けた競走馬のように戦争に向かって突進して国を崩壊させ、しかもその後 60 年以上過ぎて今もなお我が国の諸活動に影響を与えている昭和初期のこの 20 年間の動きはまさしく激動であり、異常である。「国際信義は国家的利害の従属に過ぎない」や、「歴史は学ばなければ何も教えてくれない」の文言には、同じような行動が冷徹に展開されている現代の国際社会とその中で日本の対応ぶりを見る時、考えさせられる点が多い。

(たか きゅうせい 校長)



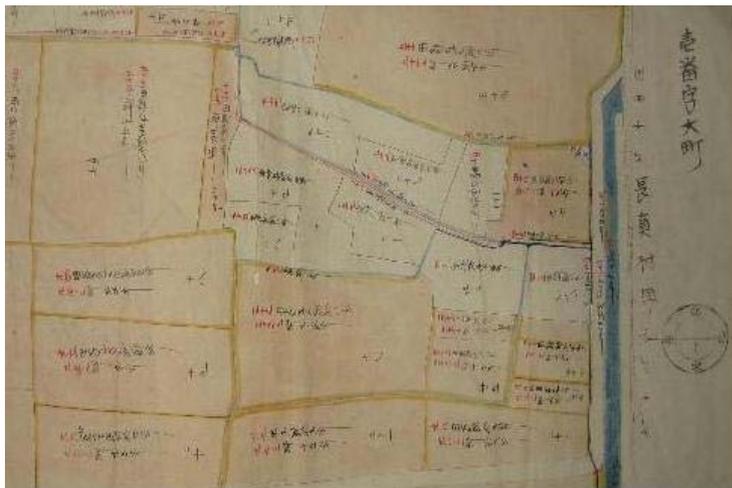
「昭和史 1926-1945」 半藤一利著
 平凡社 2004年 ISBN978-4-582-45430-7
 請求記号:210.7.H 登録番号:100416

地図資料の重要性について — 「地籍図・^{あざきりず}字切図」 —

長谷川 博史

本校図書館には、貴重な地図資料が所蔵されている。それらの中から、近代に作成された地籍図・字切図のいくつかを紹介したい。

今から50年ほど前までの日本列島の各地には、土地の歴史を雄弁に物語る地名や地割が、当たり前のように存在していた。しかし、高度経済成長期以降の都市開発や圃場整備により、また我々現代人の生活様式の変化によって、その多くが消滅したり非常に見えにくくなってしまっている。近代の地籍図・字切図が重要であるのは、古代にまで遡って土地の歴史を探る得がたい手がかりとなるからである。



「兵庫県管下播磨国揖東郡上沖邨地図」

明治10年(1877)の「兵庫県管下播磨国揖東郡片吹村地図」「兵庫県管下播磨国揖東郡上沖邨地図」は、揖保川支流の林田川西岸一帯に位置する、現在のたつの市誉田町片吹・上沖の地籍図である。田・畑・宅地など地目ごとに色分けされ、朱書きの地番、畝高表示の面積、道路や水路が丁寧に記されている。この付近では、明治20年代頃(1889～1896)に作成された揖東郡誉田村の下沖村・上沖村・片吹村・高駄村の「字限絵図面」や、昭和4年(1929)の揖保郡誉田村長真・下沖の「字限地図」も残さ

れているが、時代が下るほど表記は簡略化されている。

明治12年(1879)の「播磨国宍粟郡岸田村山林原野見取図」は、揖保川上流に位置する現在の宍粟市一宮町上岸田における山林を描いたものである。草山と山林の別や、地番、畝高表示の面積などが記されている。同じ上岸田の「宍粟郡繁盛村之内上岸田村字限地図」は、繁盛村の成立が明治22年(1889)であるので、それ以後のものと思われる。地番、田・畑・宅地等の区別、地番、道路と水路が記されている。

明治14年(1881)の「兵庫県播磨国宍粟郡草木村地図」は、上岸田の南東側に隣接する宍粟市一宮町草木の字切図である。田・畑・宅地など地目ごとに色分けされ、朱書きの地番、畝高表示の面積、道路や水路が丁寧に記されている点では、明治10年の揖東郡の地籍図と共通している。

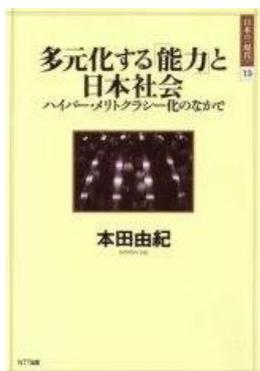
播磨国印南郡(現在の加古川市西部と高砂市)については、計21冊の字切図が残されている。そのうちの「印南郡阿弥陀村・米田村・西神吉村大字全図」は、大字(おおあざ)内部の小字(こあざ)の概略を記したものである。大字というのは、江戸時代の村に該当する。さらに、東神吉村・志方村・東志方村・西志方村(現在はいずれも加古川市)の「字限地図」20冊には、より詳細な小字内部の状況(小字の名称、範囲、内部の地割、道路や水路など)が記されている。20世紀前半の地名や地割を示すものとして貴重である。

以上の地図資料は、いずれも地域が限られ断片的である。また、こうした情報の中には取り扱いに慎重な配慮を有するものが含まれる可能性が高い。しかしながら、そこに記された地名や地割は、歴史に埋もれた地域本来の姿を浮かび上がらせ、地域づくりの方向性にも重要な示唆を与えるものである。それぞれの場所に蓄積された歴史の厚みを、あらためて実感させられる一級史料である。

(はせがわ ひろし 一般科目)

私と読書

椿本 博久



『多元化する「能力」と日本社会』 本田由紀著
 N T T 出版 2005 年 ISBN4-7571-4104-1
 請求記号:371.3.H 登録番号:100427

近代日本社会は「能力主義」社会であった。高度成長期に育った私たちは、産業界に直接に役立つ「技術者としての能力」を、高専で学んだ。その当時「能力」といえばその大部分が「知識」であり、しかも何を学んだかというよりどこの大学で学んだかが重要視されるような「能力」=「学歴」といった典型的な「学歴社会」であった。そのような潮流に挑戦し、高専教育は5年間で大学卒業と同等もしくはそれ以上の「知識」と「技術」を有する優秀な卒業生を続々と輩出した。

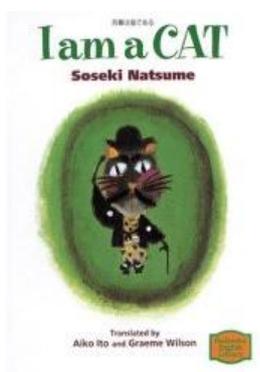
しかし時代は変わり、現代において社会で求められる「能力」は、「知識」よりも「コンピテンス」、IQよりもEQというように変わった。ならば今、学校で学ぶ子ども達に求められる「能力」とはいったいどのような能力なのであろうか。それがこの本の主題である。

著者はそのような能力観の変化を、「多元化する能力への変化」ととらえている。教育に携わる者にとって「育てるべき能力」とは何か、常に自問自答すべき重要課題である。私もまたこの数年この課題を巡って研究を続けているのであるが、この本はその主題を、可能な限り客観的なデータに立脚して分析するとともに、望ましい方向を模索し提案している。
 (つばきもと ひろひさ 電気情報工学科)

*BOOK * * BOOK * * BOOK *

私と読書

東野 アドリアナ



『I am a cat = 吾輩は猫である』 夏目漱石著
 講談社 1998 年 ISBN978-4-7700-2319-3
 請求記号:913.6.N 登録番号:100415

Books are a very old invention, and libraries too, there was a library in old Alexandria (300BC). Even tough now, in the 21st Century, that technology has greatly developed and we have several types and different kinds of media, books are still on top. Isn't it amazing? Why books?

Books are made of words and that is where I think all the magic comes from. Words can be translated to several different languages, we may find a word with a similar meaning in another language but it may be impossible to find a word with the same meaning. So books are even more interesting if they are read in their original language.

The title of the famous book “吾輩は猫である” when translated to English became “I am a cat”. “吾輩”became a simple “I”, don't you think it loses half of its charm?

(ひがしの あどりあな 建築学科)

私 と 読 書



John C. Herbert

『新 TOEIC TEST 頻出 1200 語 : スコア 730 レベル』

白野伊津夫、Lisa A. Stefani 著

語研 2006 年 ISBN978-4-87615-126-4

請求記号:830.79.S 登録番号:Z2007269

The most important consideration in choosing a TOEIC preparation book is setting practical TOEIC performance goals, and then selecting the book that best addresses those goals. “新 TOEIC TEST 頻出 1200 語” and three other books in the same series are separated into four levels of difficulty for students who want to achieve TOEIC scores above 470, 600, 730, and 860 respectively. This division is essential for all TOEIC test takers, because setting realistic and achievable goals is a key element for success.

What I like most about “新 TOEIC TEST 頻出 1200 語” is its student-friendly layout. Many other TOEIC vocabulary books appear to be nothing more than specialized dictionaries with text-heavy pages and countless vocabulary lists. This can be quite daunting for the learner. On the other hand, the book I recommend here only presents about six keywords per page with example sentences, audio, phonetic spellings, Japanese definitions, and a variety of grammatical forms.

(ハーバート ジョン 一般科目)

*BOOK * * BOOK * * BOOK *

自 著 紹 介



堀 桂太郎

『図解 LabVIEW 実習』

森北出版 2006 年 ISBN4-627-84631-2

請求記号:501.22.H 登録番号:Z2000980

LabVIEW (ラボビュー) は、計測・制御や画像処理などにおいて、データの集録から解析、表示までの全過程をパソコン上で行えるようにするためのソフトウェアツールです。LabVIEW を使えば、従来よりも大幅に少ない労力と経費で、より高性能なシステムを比較的容易に構築することができます。また、生産現場だけでなく、研究開発や学生実験などでも活用できます。本書執筆の動機は、LabVIEW が多くの人にとって役立つツールであると確信したためです。本校においても、学科を特定せずに広い分野で大いに役立つはずで

す。本書は、はじめて LabVIEW を使用する方々を対象にした入門書です。図を多く用いたわかりやすい解説を心がけながら、具体的な操作手順を丁寧に示しました。本書が、LabVIEW を使いこなす最初の一步を踏み出すための入門書としてお役に立つことを心より願っています。

(ほり けいたろう 電気情報工学科)

わたしのおすすめ本

『ほぼ日手帳の秘密 2007／ほぼ日刊イトイ新聞・山田浩子編著』

建築学科4年 鳴川 優歩

今までに、使った手帳は数知れず。自他共に認める手帳ジプシーな私がやっと辿り着いたほぼ日手帳。

毎年変わるカラーバリエーションに今年も真剣に悩んでいます。中身は工夫を凝らした驚きの1日1ページ！予定だけでなくスケッチブックにもスクラップ帳にも日記にも。なんでもない日おめでとう！

この本は、そんなほぼ日手帳の気になる中身を43人分も大公開しています。

手帳なんて必要ないと思っている人も、手帳を使いこなしている人も。ほぼ日手帳を使っている人も、ほぼ日手帳を知らない人も。毎日がさらに楽しくなるヒントがたくさん詰まっています。

(幻冬舎 2006年 請求記号:002.7.H 登録番号:100086)



『笑わない数学者／森博嗣著』

建築学科3年 吉田 寛勝

天才数学者・天王寺翔蔵博士がパーティーの最中、マジックで5メートルのオリオン像を消してみせた。そして、一夜明けるとオリオン像は2つの死体と共に現れた。犀川&西之園の師弟コンビが謎に挑む理系本格ミステリー。

高難易度のトリックが魅力の森氏の作品ではこの作品が一番易しい。各章のサブタイトルや、本文中に出てくる数学の問題も実におもしろい。独特なキャラクターが多く、推理小説に馴染みのない人にも読みやすいものとして推薦したい。

(講談社 1999年 請求記号:913.6.M-3 登録番号:099717)



『恋するフェルメール／有吉玉青著』

都市システム工学科5年 川口 夏未

フェルメールは、17世紀のオランダで活躍した風俗画家です。レンブラントと並び17世紀のオランダ美術を代表する画家とされていますが、その作品数は意外と少なく、現在フェルメール作といわれている作品は世界に37点しかありません。

この本は、世界中の美術館に点在するフェルメールの作品のうちの35点を見て回った日々を綴った、作家の有吉玉青さんのエッセイです。フェルメールの他にも色々な美術家の話題や、絵画を見る旅を通じての作者の経験が生き生きと書かれていて飽きさせません。

フェルメールの作品は日本の美術館に常在していないので実物を見たことはないのですが、この本を読んで機会があったら見てみたいという気持ちが強まりました。

(白水社 2007年 請求記号:723.359.A 登録番号:100368)



【平成18年度に購入希望は153件あり、148件の図書等を購入しました。】

図 書 館 と 私



石橋 進

退職してから早いもので半年に成ります。皆さんお元気ですか。小生も毎日サンデイにならないように、時間を有効に使うように元気に頑張っています。出来るだけ書物にも無縁にならないように読み、書きに心掛けています。そんな中で、学校より図書館報に‘図書館と私’となることを書いて欲しいとの依頼がありました。卒業した者が今更と思いましたが、自分なりに退職者の執筆理由を考えました。時間が余るだろうから図書館通いも多くなり何か気付いたことがあるのだろうか、また退職までの長年の経験から図書館の存在意義・活用などの思いを回顧して貰いたいとの意向があるのではと。参考になるかどうか後者について自分の一人言を記することにしました。

世の中は情報の時代である。インターネット、テレビ、携帯電話、電子辞書などIT機器より大抵の情報が家庭内で得られる。しかし、ゆっくりと知識を深め、情報を得ていくには甚だ素通りの感が強く、あまり頭に残らない感じがある。

図書館とは、辞書では‘本、書籍、その他の資料を集めて整理、保管し、人々に見せる所’と定義されている。図書館は静かに検索ができ、様々な情報をゆっくり調べ、読み、書き留め、有効な様々な情報を得やすく、学習できる貴重な場所である。これを活用しないわけにはいかない。

私は図書館を色々なことに利用させて貰い恩恵を頂いた場所でもある。図書館に行って判らないものを調査したり、また図書館に依頼して調査をし、解決した事象は数しれない。そしてゆっくりと本を読み、心のリフレッシュを図ったり、夢を育ませてくれた。それらは年と共に活用の仕方が異なってきたと改めて執筆中に思った。

小学校後半から中学校初期は偉人の生き方に興味を持ち、学校の図書館へよく放課後に立ち寄って、伝記小説を一心不乱に読んだのが図書館通いの始めでもあり、一番図書館にお世話になった時期だと思っている。当時のご存命でおられた湯川秀樹物語、野口英世伝記、豊田佐吉伝記、岩崎弥太郎伝記等々である。将来の夢、また多少なりとも人生観、進むべき方向にも影響を与えてくれた貴重な場所である。技術者への道に進み、また重工業メーカーの研究所、そして機械系研究教員へと歩んできたのもこの影響は大きい。

高学年になると、いささか図書館の定義に反するが、静かな学習の場所に適切で、学校近くの公共の図書館へ試験勉強の時期になるとよく行き、お世話に成った。

また機械技術者の道に入れば、特に会社勤務の時は会社の図書室に入り、一日中そこで作業をしたことを思い出す。研究職に携わった因果でもあるが新しい情報、参考技術文献、技術雑誌の調査、そして特許の動向など新製品、新技術の発掘が職務であったためであろう。そういう意味では図書室を通じてよく勉強させて貰った環境に感謝する。

学校に赴任してからは多忙で、短期間で少ない研究テーマでもあり、数える位しか利用していない。もう少し通い、心の余裕を見つけたかったのが悔やまれる。これからは少しは自由な時間があるのでゆっくりと近くの図書館通いをし、読みたいものを探索し、また家に持ち帰り心豊かな生活リズムを作って行きたいと思っている。執筆後記になるが、図書館にはあまりお世話に成っていなかったと思っていたが、案外お世話に成っていたと感じた。学生の皆さんにおかれましても、図書館は知識を得る宝庫だと思い、手軽に図書館を利用する癖をつくり、今日は図書館に行っていないのが心残りだと思うくらいの気持ちを持って貰いたいと思うのが、私の反省でもある。

(いしばし すすむ 機械工学科教員OB)

平成19年度『読書感想文コンクール』入賞作品

『人間失格を読んで』

最優秀賞 都市システム工学科1年 平松日祥

人間失格は、中学2年の頃に一度読んだものでした。そのときの恩師である先生に、「青春したいなら読んでごらん」という、とてもすてきなアドバイスを頂いたからです。今年に入り、授業で同著者の富嶽百景を読む機会があったので、再び彼の本を手にするようになりました。

人間失格は主人公である「わたし」の人生を綴った、手記の形で終始話が進みます。そして、主観でのみ語られていきます。それはまさに、「わたし」の一生を体験しているようなものでした。それは、人生が主観の塊だからではないでしょうか。人生とは自分の感じたことが全てなのです。そしてこの本はそれが、嫌と言うほど伝わってくる話でした。

彼は自分のことを人間失格だと言いました。道化だ、お化けだと、自分に言い聞かせるように。何度も、何度も。そうして、それが恥なのだと彼は言い続けました。彼は自分に絶望していたのでしょう。しかし、彼の人生を取り巻く人の全てがそんな彼を嫌っていたわけではないのです。それなのに、彼は自らを恥だと言うのです。自分自身を追いつめるように、言い続けるのです。他の人と同じような感情を持たない。嬉しいも、楽しいも、悲しいも、苦しいも、空腹感すら分からない。彼はそんな自分自身を、他の誰より嫌っていたのではないのでしょうか？

この人間失格という本の感想で、何度か「死にたい気持ちになる」とか「ものすごく落ち込む」というのを、聞いたことがあります。人の感情にそこまで影響を及ぼすというのは、太宰治の秀逸な文章のなせる技でしょう。しかし私はそれ以上に、太宰治が人の心の暗く深い闇の部分に非常に理解していたからだと思うのです。そんな人間が描く、自己嫌悪の塊である話を読んで、痛快な気分になどなれるはずがありません。自己嫌悪は人間の醜悪な部分の一つなのですから。

しかし私は、もう一つ思うことがあるのです。確かに、自己嫌悪と言う感情は私は好きになれません。ですが、一度この本を、主人公に感情移入すること無く読んでみて欲しいのです。冷静に、客観的に読むことで違う見方ができると思うのです。そう、この本の主人公である「わたし」に好感が持てるような気がするのです。なぜなら、人間の醜悪な部分こそが人にとっての弱みであり、また人間らしさだと思うからです。この主人公は幾度も自分を人間失格だと言いますが、それは主観的な意見です。客観的に彼を見ると、彼は人間らしさに溢れているように感じるのです。自らの愚かさに絶望し、必死に人間らしく振る舞おうと懸命な「わたし」。その必死な姿に愛嬌や暖かみ、滑稽さを感じるのはおかしいことなのでしょうか？

太宰治の書く本には、人間失格のように暗い話もたくさんあります。ですが、太宰治の他の作品、例えば「斜陽」では力強く生きて行く女性の姿を見ることが出来ます。そんな人の強さを書いた作品もたくさんあるのです。だから太宰治はこの人間失格を通して、人の暖かみを伝えようとしたのではないのでしょうか？確かに、人間失格の執筆後に彼は自殺をしています。そのことから、これは遺書だとも言われているのも事実です。しかし、もし太宰治が少しだけでも人生というものに絶望していなかったら、そう思うと、この話を悲観的な物語だととらえたくないのです。少しでも希望が込められていると思いたいのです。そう、信じたいのです。

こんな風に思えるようになったのは、私が人間失格の主人公に好意を持てるようになったからでしょう。以前、中学2年の頃に読んだときはただの暗い話で、もっと明るくて楽しくて前向きになるような話の方が面白く感じられました。今回再び読み終わった後には、昔の自分の感性との変化に驚かされました。いろいろ考えることができ、とても面白い本だと思いました。

（「人間失格 グッド・バイ 他一篇／太宰治作」 岩波書店 1988年
請求記号:IW.ニ.15 登録番号:095629）



『もの食う人びとを読んで』

優秀賞 電気情報工学科1年 山田拓哉

人間は、ものを食べないと生きていけない。それは当然の事だし、食欲は人間の三大欲求の一つにもあげられている。しかし、僕は今回読んだ本の題名を見たとき、少し不思議な感覚に陥った。「もの食う人びと」とはどういう事なのだろう。人間がものを食べることは当然のことであり、必然的でもある。しかし、なぜ作者はあえて「もの食う人びと」という題名にし、その当然なことにスポットライトを当てたのだろうか。それが、この本に興味を持った第一歩だった。

この本は、ノンフィクション作家の辺見庸さんがアジアを初めとする世界各国を旅し、それぞれの場所でどんな食文化があるのか、およそ1年間取材してきたことが書かれてある。しかし、別に世界各国の名物料理を調べてきたわけではない。この本のまえがきにあたる「旅立つ前に」という章の中で、筆者は「人々はいま、どこで、なにを、どんな顔をして食っているのか」に触れるためこの取材を行った、と書いている。書いてあるとおり、この本にはどんな人が、どんな物を、どんな風に食べているのか、という事が書かれてある。バングラデシュを初めに、東南アジア、ヨーロッパ、アフリカ、ロシア、そして北方領土、韓国という順に世界を回り、世界各国で会ったさまざまな人たちのことが書かれている。

その中で、僕が一番興味を持ったのは、「残飯を食らう」という章だ。ここでは、名前の通り残飯が商品として売買され、生活の中で普通に食されている様子が書かれている。場所はバングラデシュ。ダッカ駅の駅前広場の屋台で、ピラニと呼ばれる焼き飯と、バットと呼ばれるご飯に骨つき肉がついているもの、もちろん残飯だが、それぞれ十数円ほどの値段で売られているのだ。新品のピラニやバットはそれらの3～4倍の値段がするので、確かにかなりの節約にはなるのだろう。だが、僕にとって、この事をはじめて読んだときは凄い衝撃だった。残飯を食べる、という事が日常化している人たちがいる。そんな事など今まで考えた事もなかった。

残飯の主な消費者は、スラム街の住人や、二十万人もいると言われるリキシャ、つまり自転車で引く人力車の運転手たちの一部がいる。それらの人たちは、金持ちの披露宴のような、儀式や祭礼で出た残飯を食べている。筆者は、「富者のハレ（祭礼、儀式）の日はまた、貧者にとって食の流通の時でもあるのだ。」と書いている。式の主催者やウェーターが仲介して残飯の仲買人に売り、それらの仲買人がまた卸売りをし、最終的にはダッカ駅前やフェリー発着所を含む「残飯四大市場」で消費者たちに売られる、という残飯の流通サイクルができあがっているのだ。

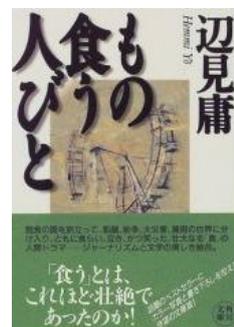
しかし、そこまで残飯が流通していても、スラム街の住人の中には残飯さえ食べることが出来ず、枯れ枝のようになって道端で死んでいく人達もいる。また、ゴミ捨て場の中でカラスや野犬にまじり、ゴミをあさっている子供たちもいる。

スラム街の住人でない、一般の人たちであっても、「パンタ・バット」と言われる、残ったご飯を水に浸し、翌日塩を加えて食べるという方法を取り、残り物のご飯を食べている。それほど国全体が飢えているのだ。

今の日本からすれば、残飯を食べることなんて想像もつかない。しかし、日本は外国から、かなりの量の食糧を輸入している。もし、外国からの輸入が無くなったら。今のようにグルメや、健康のための食事などではなく、「生きるための食事」さえままならなくなったら。日本で残飯を食べる日がいつか来るかもしれない。

食べる事は確かに楽しい。が、それと同時に、食べることは生きるために不可欠な事である、という感覚が今の日本では薄れているような気がする。「飽食の時代」と言われる今だからこそ、「生きるために食べる」という事をしっかりと考えなければならないと思った。

（「もの食う人びと／辺見庸著」 角川書店 1997年
請求記号:916.0.H 登録番号:100438）



◎ 角川書店

『銀河鉄道の夜 ～宮沢賢治を読む～』

優良賞 都市システム工学科5年 野村麻利恵

ジョバンニとカムパネルラは、賢治とその妹トシなのか、またはこの二人は、賢治そのものなのか……。そんな事はどうでもいい、と読み流してしまうほど愚かな事はない。童話とは楽しさだけではない。そこには深い悲しみや喜びが込められている。単なる子供のための話ではなく、もっともっと大きな意味がある物語だと気付かなければならない。時として、それは今後の自分の人生の土台になってくるかもしれないのだから。少なくとも私は、いつもそう思って読んでいた。

周知のように、明治二十九年、岩手県花巻町に生まれた宮沢賢治は三十七歳という若さで鬼籍の人となった。彼の生きた明治、大正、昭和は決して平和であったとは言えない。むしろ戦争への道を一気に駆け上っていった激動の時代であったのだ。そんな中での執筆活動は、ややもすれば現実逃避との指南を受け異端視され、挙句の果てには彼を三文文士と嘲笑した者もいたであろう。八十四歳で亡くなった私の曾祖母は、賢治と同じ年に生まれた。その遺品の中には彼の作品があったという。同年代を生きたお祖母様、どのような感想を持たれたのか、あの世で出会ったならば聞いてみたい衝動にかられた。

今、夜空を見上げれば満点の星（とは言い難いが）、銀河系が横たわる。昔むかし幼い頃、人は死ぬと星になると教わった。賢治はその何処に三角標を印したのだろうか。ふとなぜか「永訣の朝」で妹のトシの言った「生まれでくるたて……」という言葉が口を衝いて出た。次の人生では、他人の苦悩をいっしょに背負う事を願うという彼女の気持ちであるのだが、それは残された賢治の生き方に見事、実践されていくのである。

言葉は悪いが、富める家に生まれた者は、往往にしてその財力ゆえに勘違いをし、ボンクラな人生を送った者が多い。彼は、土まみれになって働く農民からの搾取で成り立つ自分の生活に疑問を持ち、後に法華經に入信するが、彼の作品の根底には、其処彼処に法華一乗の精神が貫かれているのだ。彼はこの教えを文学で語り、そして学んだ科学の知識で人々の幸せを願ったに違いない。まさしく、信仰と行動をひとつに生きた人生だったと私は思う。教師を辞し、羅須地人協会を設立して、無料で肥料稲作巡回相談をするなど、この自己犠牲の精神は、カムパネルラが友人を助けるために川に飛び込んで死んでいくところに、はっきりと読み取れるのだ。それが彼の作品の大きな魅力だと言える。

彼の死後、日本はもとより世界各国が劇的な進歩を成し遂げた。しかし、その背後には常に「破壊」という言葉がついてまわっているのは事実だ。そして、人の心もまた同じことが言えるのではないだろうか。あまりにも個人主義に走りすぎる今の世の中の行き着く所に何が待っているのか……。考えるだけで恐ろしいが、事実を真正面から見据えて再考せねばならない時期なのは確かだ。

地上のあらゆる生命体は、それぞれの使命をもって生まれてきている。侵害することは許されない。偏狭な先入観にとらわれず、もっと広い眼を持ちたいと思う。それが、宇宙に生きるすべての生物の幸福へとつながるのではないかと考えているのだ。

私事で恥しいが、私は長い間、「銀河鉄道の夜」と「銀河鉄道999」を混同していた。それは、後者があまりにもファンタジーで、しかも私が、見ることと聞くことから入ってしまったからだ。しかし、本を読むという事は、作者の生涯を辿らないと、その作品に込められた願いがわからない。今回、私は宮沢賢治の作品を久しぶりに読んだが、自分があまりにも未熟なため、彼を理解し語る事が出来ない事をはっきりと痛感した。彼は決してデクノボーではない。この私がそれであったのは確かだ。

（「銀河鉄道の夜／宮沢賢治著」 角川書店 1996年
請求記号:909.3.M 登録番号:100439）



© 角川書店

『ガリバー旅行記を読んで』

特別賞 都市システム工学科1年 松島翔子

自分が中学生の頃、インターネットの検索サイト「YAHOO」が、ガリバー旅行記の「馬の国」に登場してくる人獣ヤフーからきているのを知り、ガリバー旅行記をもう一度しっかりと読んで見たいと思っていた。ガリバー旅行記の、「小人の国」「巨人の国」が、私の幼いころの、お気に入りの本だったことも、大きな理由だ。



幼い頃読んだときは、まったく違うイメージだった。「ガリバー旅行記」で、作者スウィフトが、ガリバーを、小人の国、巨人の国、学者の国、不死の国、馬の国へと、現実には本当にありもしない国に漂流させることによって、実は人間をたくさん観察したり、風刺しているという。そういうスタンスで、この本を読み進めてみると、確かに興味深い。

たとえば、私が、幼いとき真剣に行ってみたいと思っていた、「小人の国」リリパット国は、隣国と戦争中である。その理由は、卵の殻の正しいむき方は、大きい方から小さい方からかという、ただそれだけの意見のくい違いだ。作者の、戦争を嫌い、平和を愛する姿勢がこの設定からもすごく伝わってくる。これは、人種や、宗教で対立している人間の愚かさをも言いたかったのだろうか・・・。

そして、何より興味深いのが、わが国、日本が出てきたことだ。他がすべて、架空の想像上の国なのに、この章だけが、実在する日本なのは、どうしてなのか、とても興味をもった。ちょうどこの頃、日本は鎖国の時代だった。きっと、よく分からない、未知の国としての設定だったのだろうか。でも、風刺を得意とするスウィフトのことだから、もっともっと奥深い何かを言いたかったのだろうか。今の私には残念だけれど、まだ、そこまでわからない。

最後に、いよいよヤフーの登場する「馬の国」の章では、最も強烈な設定がでてくる。馬を主人とする国の家畜人間。家畜（動物）と、人間が逆転した作品といえば、「猿の惑星」を思い出したが、人間は天然自然の世界においては、ルール違反の存在だ。頭脳だけが著しく発達して、自然を踏み荒らしては、必ず、自然破壊のせいで、自分たちが自滅してしまうという不安の上に、この「猿の惑星」などのテーマをもった映画が作られたと思っていたが、それ以前にスウィフトはやっていたわけだ。どの生き物も、自然から生まれると、自然との調和を考えるようにできている。なのに、人間だけは逸脱している。

さらに、最後、ガリバーは、「ヤフー」を超越した理性的な人間になろうと努力する。結局、行き過ぎた理性や潔癖症は、人間嫌いという結果を招いてしまう。やっと、故国に帰りついた後も、ガリバーは自分の出来る限り、人間性から遠ざかろうと考え、自分の妻よりも廊舎の臭いを好んだ場面は、ショックだった。きっと、ガリバー本人にとっての人間性とは、人間、すなわちヤフーだったのだろうか、と思えて切ない。

それと同時に、作者スウィフトは、努力すれば、理性的な人間になれると思込んでいるガリバーを、嘲笑しているようで、悲しい気持ちになった。なぜなら、ガリバーはすなわち、私たち人間そのものに他ならなかったから。

何かが変わりかけているのも事実であるし、実際、地球に優しい動きも始まっている。スウィフトが、もしかしたらもう一章書きたくなるような、人間の動きを自分も含めてとっていきたい、と強く思う。

(「ガリバー旅行記／スウィフト著」 講談社 1992年
請求記号:933.0.K 登録番号:100436)

学生用推薦図書・雑誌

推薦図書コーナーに開架しています。(以下、抜粋)

機械工学科推薦

- | | |
|---------|-------------------------|
| 530.0.A | トコトンやさしい機械の本／朝比奈奎一ほか |
| 530.0.K | よくわかる最新機械工学の基本／小峯龍男 |
| 531.9.I | 絵ときでわかる機械設計／池田茂ほか |
| 531.9.N | 現場で役立つ機械製図の実務と心得／永島滋雄 |
| 532.0.A | 絵とき CAD/CAM 基礎のきそ／朝比奈奎一 |
| 雑誌 | 「日経ものづくり」 |



電気情報工学科推薦

- | | |
|----|------------|
| 雑誌 | 「OHM」 |
| 雑誌 | 「日経 Linux」 |
| 雑誌 | 「トランジスタ技術」 |

都市システム工学科推薦

- | | |
|---------|---------------------|
| 317.4.Y | 公務員試験にでる！ 構造力学／米田昌弘 |
| 510.0.K | ハンディブック土木／栗津清蔵 |
| 511.4.Z | 新版土木材料学／近藤泰夫ほか |
| 511.7.Z | 新版鉄筋コンクリート工学／近藤泰夫ほか |
| 681.8.N | 日本の都市と路面公共交通／西村幸格 |
| 685.5.N | バスでまちづくり／中村文彦 |

建築学科推薦

- | | |
|----------|--|
| 336.4.W | プレゼンテーションの教科書／脇山真治 |
| 501.34.K | 英語で学ぶ構造力学／勝山邦久ほか |
| 520.4.Y | 建築をつくることは未来をつくることである／山本理顕ほか |
| 524.1.T | 建築構造の力学 I・II／寺本隆幸 |
| 526.68.T | 中部国際空港のユニバーサルデザイン／谷口元ほか |
| 577.0.M | Ecology : from individuals to ecosystems／Michael Begonほか |

一般科目推薦

- | | |
|----------|------------------------------|
| 019.0.G | 必読書 150／柄谷行人ほか |
| 404.0.N | 科学ジャーナリストの手法／日本科学技術ジャーナリスト会議 |
| 434.04.Y | 化学者たちの感動の瞬間／有機合成化学協会 |
| 518.8.A | 歴史都市の破壊と保全・再生／アンソニー・M・タン |
| 773.0.K | 誰も知らなかった京都聖地案内／小松和彦 |
| 783.59.N | バドミントン教本 基本編／日本バドミントン協会 |
| 821.2.S | 白川静さんに漢字は楽しい／小山鉄郎 |
| 雑誌 | 「CNN English Express」 |
| 雑誌 | 「大学への数学」 |
| 雑誌 | 「ロボコンマガジン」 |

詳しくは、図書館 HP (<http://www.akashi.ac.jp/lib/siryou/suisen07.htm>) をご覧ください。

利用ランキング 2006. 10. 1-2007. 9. 30

— 図書 —

- ① 14回 「エース建設構造材料」
- ① 14回 「土質試験の方法と解説」
- ② 13回 「ハリー・ポッターと謎のプリンス」
- ② 13回 「コンクリート工学 微視構造と材料特性」
- ② 13回 「確立・統計 理工系の数学入門コース 7」
- ③ 12回 「建設材料コンクリート」
- ③ 12回 「線型代数」
- ③ 12回 「土木材料学」
- ④ 11回 「コンクリート総覧」
- ④ 11回 「物理のエッセンス電磁気・熱・原子」
- ④ 11回 「微分積分概論」
- ④ 11回 「詳解複素関数論演習」

- DVD -

- ① 50回 『パイレーツ・オブ・カリビアン 2』
- ② 42回 『Mr. & Mrs. Smith』
- ③ 32回 『パイレーツ・オブ・カリビアン』
- ④ 30回 『THE 3名様 ①』
- ④ 30回 『チャーリーとチョコレート工場』
- ⑤ 22回 『THE 3名様 ③』
- ⑥ 21回 『ターミナル』
- ⑦ 19回 『THE 3名様 ②』
- ⑦ 19回 『オーシャンズ 12』

— 雑誌 —

- ①「新建築」②「A+U 建築と都市」③「新建築・住宅特集」④「住宅建築」⑤「建築文化」

図書館利用状況 (平成14年度から平成18年度)

項目 / 年度		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	
年間	入館者数	時間内	59,971	52,295	54,993	44,711	39,850
		時間外	14,691	12,612	13,749	11,724	11,116
		計	74,662	64,907	68,742	56,435	50,966
	AVルーム	計	4,331	4,891	3,948	3,987	3,272
	貸出者数	計	4,637	3,782	4,083	4,140	3,670
	貸出冊数	計	8,419	7,598	8,419	7,850	7,188
	開館日数	年間	260	276	281	286	294
一日平均	入館者数(時間内)	230	220	196	183	163	
	入館者数(時間外)	72	55	60	50	46	
	AVルーム	16	18	14	14	11	
	貸出者数	18	14	15	14	12	
	貸出冊数	33	28	28	27	24	

【開館時間】 時間内：平日 8:30～17:00 時間外：平日 17:00～20:00 土曜日 10:00～16:30



図書館利用案内

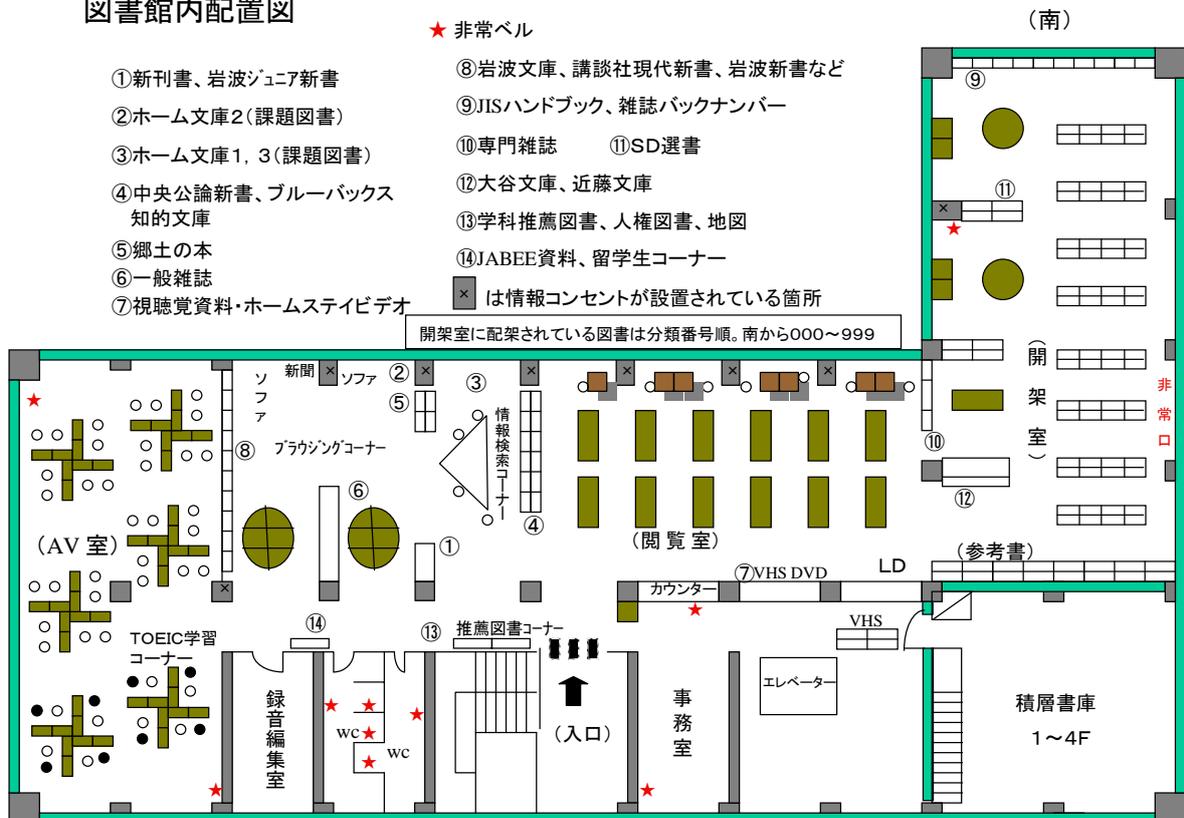
開館時間	
月～金曜日	8:30 - 20:00
土曜日	10:00 - 16:30
春・夏休み期間中	8:30 - 17:00
休館日	
日曜日・祝日 春・夏休み期間中の土曜日 年末・年始 12/27 - 1/6	

	貸出冊数	貸出期間
通常	5冊	2週間
卒研	3冊	2ヶ月

卒研貸出は通常とは別に貸出ができます。対象者(学科4年生以上、専攻科生)は卒研カードを発行しますのでカウンターで手続きしてください。

学科推薦図書・JABEE関連資料・留学生向図書・視聴覚資料・参考書など各コーナーに別置しています。

図書館内配置図



海外図書館事情

カリフォルニア大学アーバイン校にて

田坂 誠一

平成19年3月より、在外研究員としてカリフォルニア大学アーバイン校（UCI）にて研究に従事しております。UCIはUC系10大学の一つで、1965年に設立された、学生数約26,000人の総合大学です。ここでは、学内に設置された図書館についてご紹介いたします。



学内には2つの主要な図書館（Langson Library（1965年設置）とScience Library（1994年設置））があり、キャンパス外には医学系の図書館（Grunigun Medical Library）があります。Langson Libraryには最新の学術雑誌や国際新聞などのほか、主に芸術、生物、人文、教育、社会、ビジネス系の書籍や刊行物が保管されています。Science Libraryは近年建設された6階建ての図書館（写真）で、主に理工学系の書籍や刊行物が置かれています。UCI全体で約270万冊の図書と47,000種の定期刊行物（オンライン・ジャーナルを含む）を保有しています。また、計600台を超えるパソコンが設置され、情報検索、授業、トレーニングなどに供されています。

図書館は、パソコンとインターネットを活用した情報サービス拠点という側面を有しています。いくつか例を挙げてみましょう。まず、館内は有線・無線LANによってノートパソコン（登録が必要）からインターネットに接続できる環境が整っています。図書館Webサイトでは学内外のオンライン・リソース（データベース）にアクセスして研究や勉学に必要な情報を入手するための手引きが詳しく紹介されています。質問があれば、メールやチャットで問い合わせができます。オンライン文献検索ではUC系10大学が連携した検索システムが利用可能です。検索した情報を自分のメールアドレスに送信したり、文献コピーの配送を依頼することもできます。また、オンライン・ジャーナルが大変充実しており、論文のフルテキストも容易に入手できます。これらの情報源へはVPN（Virtual Private Network）を通じて学外からもアクセスが可能です。授業料や生活費がかなり高いこともあるのでしょうか、CRTや液晶モニタに向かってキーボードを打つ真剣な表情の学生で館内はいつも混み合っています。

（たさか せいいち 建築学科）

【掲示板】

- ☆ 平成18年度より試行として学生の定期試験開始1週間前及び試験期間中の日曜・祝日に、図書館を臨時開館しております。開館時間は、土曜日と同じです。
- ☆ 図書館は一般の方へも開放しており、利用登録を行えばどなたでも利用できます。利用できる資料は、館内所蔵の図書・雑誌です。

図書館ホームページ <http://www.akashi.ac.jp/lib/index.html>

【編集後記】

図書館報第43号をお届けします。お忙しい中、原稿をお寄せくださった皆様ありがとうございます。本号の各記事が読者や図書館の利用に役立っていただけると願っています。

明石工業高等専門学校図書館報 第43号 2007年12月発行

編集・発行 明石工業高等専門学校図書館 〒674-8501 明石市魚住町西岡 679-3 (078)946-6051